

紫波町温泉保養公園再整備基本構想（案）
〔概要版〕

紫波町産業部商工観光課
令和8年6月

- 1 事業の背景
- 2 町の現状把握
- 3 再整備の方向性
- 4 住民ワークショップ（意見交換会）の開催
- 5 公民連携による整備手法及び運営手法の検討
- 6 敷地活用計画及び施設整備計画
- 7 鳥瞰図及び透視図の将来像
- 8 概算事業費と財源
- 9 スケジュールの整理

1 事業の背景

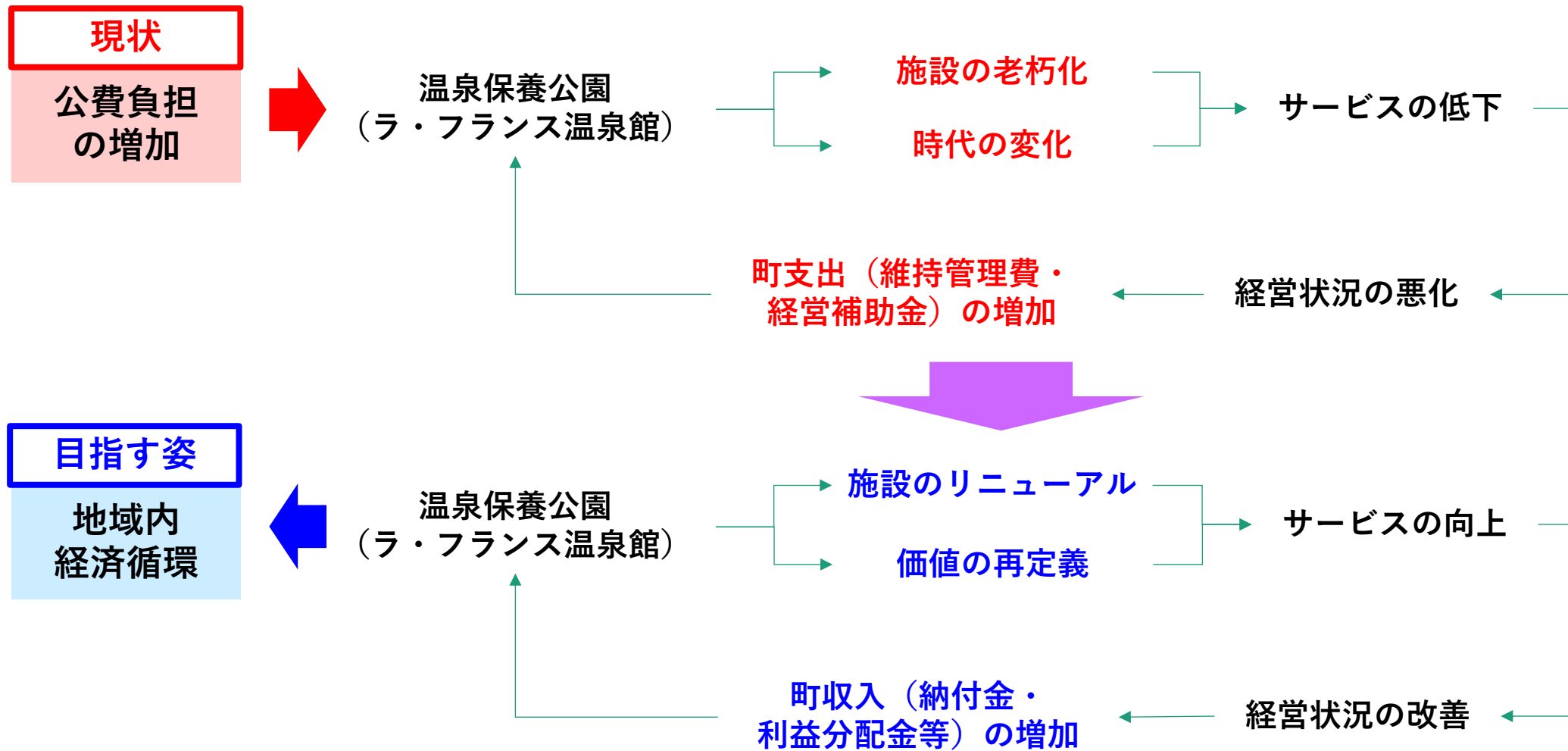
- ・紫波町の温泉掘削は、ふるさと創生事業を活用して平成2年に着手し、泉温度41.3℃、湧出量毎分127ℓの温泉を掘り当てることに成功。その後、平成4年に「温泉保養公園クアパークラ・フランス基本構想」を策定し、「健康づくり」「地域産業活性化」「地域文化の創造」を原点に据え、「心身をリフレッシュして、健康で文化的に過ごす場所」の創出を基本テーマに、公園全体の整備が進められた。
- ・中でも、公園の中核施設であるラ・フランス温泉館及び研修産業館は「特定地域における若者定住促進等緊急プロジェクト」の認定を受け、「地域産業の活性化を図り、魅力ある就業の場の確保に資する」ことを目的に建設された。



- ・そして、平成9年に「紫波町温泉保養公園条例」を制定し、施設運営の目的を「町民の健康の保持及び増進」並びに「観光の振興」とするとともに、運営方法を「指定管理方式」と定め、現在は第三セクターであるラ・フランス温泉(株)が指定管理者として管理・運営を行っている。
- ・開業から30年弱が経過したラ・フランス温泉館及び研修産業館は施設の老朽化が進行しており、毎年の維持修繕や改修工事等に要する経費が増大している。また、社会情勢の変化やライフスタイルの多様化により、条例で定めた当初の目的である「健康増進」の概念や「観光振興」の在り方が変化しており、時代に合わせたサービスの提供が難しくなっている状況がある。
- ・現状では、温泉保養公園の事業継続に対し多大な公費負担が発生し続けていることが大きな課題となっているため、「施設の老朽化」と「時代の変化」に対応し、民間の創意工夫を最大限に生かしてサービス水準の向上を図るとともに、公費負担を最小限に抑えることで、持続可能な事業モデルを構築する必要が高まっている。

1 事業の背景

解決すべき行政課題



・以上を踏まえ、本基本構想は温泉保養公園の再整備に向けて、存在価値の再定義や施設の基本的な方向性、導入機能の方針や整備及び管理運営方法の考え方を整理し、町が目指す方向性を明らかにするものである。

2 町の現状把握

- ・温泉保養公園再整備の基本的な方向性を検討するため、各種分析調査を実施した。

調査名	明らかとなった新たな温泉保養公園のニーズ
<p data-bbox="89 275 308 322">PEST分析</p> <p data-bbox="89 351 876 522">政治 (Politics) 、経済 (Economy) 」 「社会 (Society) 」 「技術 (Technology) 」 の4つの外部環境要因を整理し、事業や地域を取り巻く機会と脅威を把握する</p>	<p data-bbox="945 275 2430 368">・温泉保養公園は、単なる観光目的の温浴施設という役割から脱却し、多様な人々が交わり共創や成長を生み出す文化拠点を目指す必要がある。</p> <p data-bbox="945 429 2430 572">・自然豊かな立地特性を生かし、新たな価値を生み出す人材を惹きつける強力な求心力を持つ必要があり、温泉保養公園は持続可能なエコシステムを育むための最重要エンジンとしての役割が求められている。</p>
<p data-bbox="89 649 254 696">3C分析</p> <p data-bbox="89 725 876 896">「自社 (Company) 」 「顧客 (Customer) 」 「競合 (Competitor) 」 の3つの視点から現状を整理し、強みや市場機会、競争環境を把握する</p>	<p data-bbox="945 649 2430 739">・温泉保養公園再整備は、あづまねエリアをはじめとする農村エリアにおいて持続可能なまちづくりモデルの構築を目指す取組みである。</p> <p data-bbox="945 801 2430 891">・あづまねエリアの自然資源を将来に渡って繋いでいくため「まちの再編集機能」を担う拠点施設になることが求められている。</p>
<p data-bbox="89 972 333 1019">SWOT分析</p> <p data-bbox="89 1048 901 1262">内部環境をStrength (強み) とWeakness (弱み) の2つの要素に、外部環境の結果をOpportunity (機会) とThreat (脅威) 2つの要素に分け、強み・弱み・機会・脅威を統合的に整理する</p>	<p data-bbox="945 972 2430 1062">・新たな温泉保養公園に求められる役割は、豊かな自然資源を生かした農村エリアにおける「地域共創型」の事業である。</p> <p data-bbox="945 1123 2430 1213">・ベッドタウンである町の状況も踏まえ、ファミリー層をはじめとする「地域住民のサードプレイス」としての機能を持ち合わせる必要がある。</p> <p data-bbox="945 1275 2430 1365">・地元企業等をはじめとする近隣事業者との連携や共創を重視しながら、農村エリアに付加価値を生み出すためのビジネスモデルが求められている。 5</p>

2 町の現状把握

- ・ラ・フランス温泉館の利用者の施設に対する現在の意向を確認するため利用者アンケートを実施した。また、かねてより町の課題の1つとなっている子供の遊び場不足の解決に資する取組みを検討するため、子育て世代向けアンケート調査を実施した。

要素	明らかとなった新たな温泉保養公園のニーズ
温泉利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のうち6割以上が町外在住者である。 ・健康維持にとって温泉は非常に重要と考えている人が多数。 ・今後充実してほしい施設として、「温泉やサウナ」と「屋外公園やグラウンドや遊具」が求められている。
子育て世代	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中で子どもと一緒に体験したいことの1位は「森林アスレチック」である。 ・建物内で子どもと一緒に体験したいことの1位は「自然を感じられる屋内アスレチック」なので、屋内・屋外を問わず、子どもが安全に思いっきり遊べる環境が求められている。 ・未来像イメージの雰囲気に対してはほとんどの方が好印象で、期待や応援の意見が多数である。

- ・ビッグデータ等を活用し、主に岩手県内に暮らす方々の趣味趣向や生活様式を把握し、広範囲の消費者ニーズを分析した。

	町民	町外者
温浴施設に求めるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・景色が良い露天風呂 ・リラックススペース ・Wi-Fiとコンセント ・地元食材のレストラン 	<ul style="list-style-type: none"> ・源泉かけ流し温泉 ・テレビやリクライニングチェア ・リラックススペース ・地元食材のレストラン
ラ・フランス温泉館への要望・改善	<p>[満足] お湯がいい、休憩室が広い、お風呂が広くて種類が豊富、設備やサービスが充実している、レストランの食事</p> <p>[改善] 特別な印象が無い、これといった魅力が乏しい、施設が古くなっている、バスなどの交通利便性の向上、子どもが小さいときは利用していたが大きくなったので</p>	
温浴目的以外の関心	<ul style="list-style-type: none"> ・車でのおでかけ：ショッピングモール・デパート、道の駅・サービスエリア ・家族でのおでかけ：ショッピングモール・デパート、道の駅・サービスエリア ・子どもにさせたいこと：自然とのふれあい、アウトドア・アクティビティ、スポーツ ・「●●×温浴施設」：道の駅・サービスエリア、キャンプ場 	<ul style="list-style-type: none"> ・車でのおでかけ：ショッピングモール・デパート、道の駅・サービスエリア ・家族でのおでかけ：ショッピングモール・デパート、道の駅・サービスエリア ・子どもにさせたいこと：自然とのふれあい、地域の伝統・文化体験、アウトドア・アクティビティ ・「●●×温浴施設」：道の駅・サービスエリア、産直

3 再整備の方向性

(1) あづまねエリアブランディングビジョンの策定

- 温泉保養公園が当初から目指している「心身をリフレッシュして、健康で文化的に過ごす場所」「地域産業の活性化を図り、魅力ある就業の場の確保に資する」というテーマについて、各種ニーズ調査等の結果も踏まえ時代に合わせて再解釈するとともに、あづまねエリア全体で実現を目指していくため、「あづまねエリアブランディングビジョン」を策定した。そして、目指す姿として「人が森と育つまち～森へのとびら～」というテーマを掲げた。

(2) 温泉保養公園再整備基本構想のコンセプト

- このビジョンを踏まえ、温泉保養公園の当初からの目的である「健康増進」は「ウェルビーイング」、「観光振興」は「サステナブル・ツーリズム」とそれぞれ解釈し、発展的に再定義する。

■ウェルビーイング

「身体的」「精神的」「社会的」な健康が良好な状態と定義されています。また、ウェルビーイングの実現のためには「自然とのふれあい」が重要であるとも言われています。温泉保養公園では、天然温泉をはじめとする自然資源を生かしながらウェルビーイングを推進することを目指します。

■サステナブル・ツーリズム

地域の「環境」「文化」「経済」を守り育むツーリズムの概念と定義されています。あづまねエリアには自然資源を生かした観光資源が多数存在します。また、温泉保養公園は環境省の脱炭素先行地域に選定されたモデル地区内に立地しており、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを推進するための重要施設でもあります。温泉保養公園を拠点に、紫波町らしい新たな観光振興を目指します。



4 住民ワークショップ（意見交換会）の開催

- ・基本構想の素案について、地域住民や関係者の方々を対象にワークショップを開催した。主な意見等は次のとおりである。

■現在の基本構想素案に対する感想

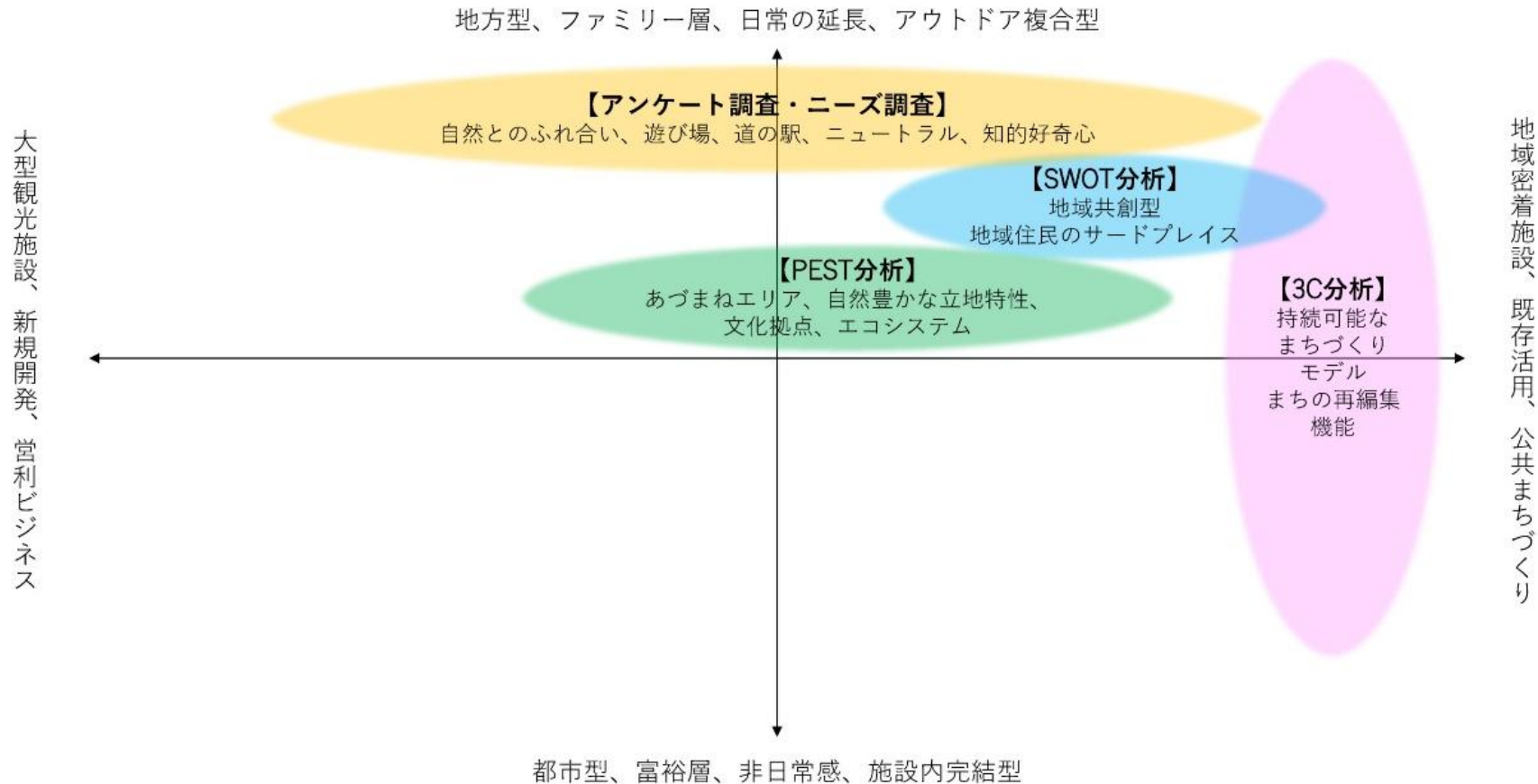
賛同のご意見	<ul style="list-style-type: none">・好奇心をくすぐる場所、ニュートラルで、活力を得られる場所になる。そんな期待で胸がいっぱいになりました。・温泉と公園の機能を再定義したことに共感した。住民自身が、自分たちがどうありたいか？を考えて行動することが大切だと思う。ラ・フランス温泉館は既に多くの人が集まっている場なので、形を変えて生かした方が良い。・リフレッシュしたいときに本や雑誌、お店を見たりするので、「好奇心をくすぐる」というワードが良いと思った。登山や自然体験と温泉を一緒に楽しめる環境は素晴らしいと思う。・もともとある温泉と公園を生かして、そこに本のような好奇心の要素が加わることで、文化的に充実したエリアになるという点に好感を持った。・温泉と公園をつなぐ発想はとても良いと思った。別々に開発してもどうしようもないものになる。心と体をととのえる空間になってほしい。・温泉と公園を融合させて一体的に捉えた構想なのが良い。登山者の意向を組み込んでほしい。
慎重なご意見	<ul style="list-style-type: none">・「好奇心をくすぐる場所」に興味はあるが、お金もかかることなので維持管理も含めて施設規模を検討すべき。・なぜ今、利用者が減っているのかという理由が分からなかった。みんなが欲しいものが分からないと、一時的に増えても持続するか分からない。・若者は新しいものに興味がわくと思うが、60代以降の人は違うのではないか。福祉的な視点が感じられない。・周囲のお店と競合しないようにすべき。

■プール棟やグラウンドの用途を変更することについて

賛同のご意見	<ul style="list-style-type: none">・プールは有効活用されていないように感じるので、通年で利用できる屋内遊び場は嬉しい。子供たちの遊びのために町外に出ることが多いので、町内に遊び場があると嬉しい。・プールとグラウンドの遊び場への転換は良いと思う。子供たちがまた来たいと思える場所は必要。・全天候型の屋内施設は必要。グラウンドも現在はあまり利用されていないので、親子連れが気軽に訪れることができる場所になれば良い。・とても嬉しい。子供だけではなく「ファミリー」を描くものになっていてワクワクします。
慎重なご意見	<ul style="list-style-type: none">・プールもグラウンドも、現在の利用者がどうなるのか心配。・町内の学校でもプールを使用できない状況があるので悩ましい。・物があれば子供が集まるわけではないと思う。

5 公民連携による整備手法及び運営手法の検討

- これまでの各種分析や調査の結果を踏まえ、本事業を通じて目指すべき新たな温泉保養公園に求められる役割は、次のとおり整理することができる。



- 横軸を「施設の性格や特徴」、縦軸を「サービスの質やターゲット層」とし、これまでに実施したPEST分析、3C分析、SWOT分析、アンケート調査やニーズ調査の結果を配置すると上記のとおりとなる。
- よって、新たな温泉保養公園に求められる役割は図の右上部分に重点が置かれるかたちとなり、新たな温泉保養公園の整備内容や運営事業者はこの方向性に沿って選定されることが望ましいと考えられる。

5 公民連携による整備手法及び運営手法の検討

- 整備手法については、E O I方式、D O方式、D B方式、D B O方式のいずれかで検討する。そして、管理運営手法も加味したうえで4つのパターンの特徴をそれぞれ比較すると、次のとおり整理することができる。

項目	E O I方式	D O方式	D B方式	D B O方式	評価視点
設計手法	民間主導の設計（運営者監修）	民間主導の設計（運営者監修）	町主導の設計	民間主導の設計	運営者視点
整備手法	公共整備	公共整備	公共整備（JV）	公共整備（JV）	費用・実現性
運営形態	指定管理	指定管理	指定管理	指定管理	公共性・実行力
公共性	中程度（協定・連携により担保）	中程度（協定・連携により担保）	高い（町出資会社が運営）	低～中（契約条件次第）	住民満足度
柔軟性・創意工夫	一部に民間の創意導入	一部に民間の創意導入	限定的（固定運営）	高い（民間主導の自由度）	革新性
地域企業の関与	個別連携で一部あり	個別連携で一部あり	あり（既存ネットワーク）	公募時の条件付与次第	地域経済波及
町の関与度	中程度（契約と協議で調整）	中程度（契約と協議で調整）	高い（継続監督と財政支援）	低い（長期契約・監視中心）	コントロール性
導入のしやすさ	○（段階的導入）	○（段階的導入）	◎（現状踏襲型）	△（制度設計・合意形成が必要）	導入の現実性

- E O I方式及びD O方式は、一定の民間事業者のノウハウの発揮が期待でき、維持管理運営面等のライフサイクルコスト全体で見たコスト縮減が期待できる。また、施工部分を切り分けて公共発注とすることで、地元企業が参画しやすくなるというメリットがある。
- D B方式は、既存体制を活かして従来通りの指定管理を踏襲しつつ、機能分担を最適化する場合に確実なアプローチだが、事業収支の改善や町の財政負担の抑制には不安が残る。
- D B O方式は、一括発注による一定の民間事業者のノウハウの発揮が期待でき、ライフサイクルコスト全体で見たコスト縮減が期待できる。ただし、コンソーシアム（企業グループ）を組成するためのチーム編成の難易度が高く、地元企業の参画や公共性の担保が難しくなる場合がある。
- 以上の検討から、手法についてはE O I方式またはD O方式を採用することが効果的であるという結果になった。
- また、指定管理の契約形態については、民間事業者側の裁量を拡大して持続可能な事業モデルを構築するため、指定管理者に対し町への納付金や施設の修繕・改修の費用負担を求める代わりに、10年などの長期間の指定管理期間を付与する「新たな指定管理」を想定する。

6 敷地活用計画及び施設整備計画

- 再整備のコンセプトに基づき、親和性が高いものを隣り合わせながら、施設内には静かな機能、徐々に外側に向かうにつれてアクティブな機能を配置していく。



7 鳥瞰図及び透視図の将来像

・ 将来像のイメージ



8 概算事業費と財源

- ・温泉保養公園全体の将来像を見据え、町の財政負担への影響も考慮しながら、整備は段階的に進めていくことを想定している。
- ・第1段階として、既存施設であるラ・フランス温泉館及び研修産業館の改修工事。第2段階として、公園部分であるクアパークラ・フランスの再整備。第3段階として、新たな商業施設の建設等を想定する。
- ・そのうち、第1段階のラ・フランス温泉館及び研修産業館の改修工事は、概ね10億円前後が見込まれている。
- ・第2～3段階の事業については、順を追って詳細な検討を進めていく予定。
- ・財源として国の各省庁の交付金や補助金を活用できる可能性があり、現段階において優先的に検討を進めているのは内閣府の地域未来交付金（地域未来推進型・拠点整備事業）である。また、起債等も活用しながら町の財政負担の軽減や平準化を図るほか、企業版ふるさと納税やガバメントクラウドファンディング等の新たな手法による共感資本の獲得も目指していく。

9 スケジュールの整理

- ・本基本構想は7月の策定を目指しており、策定後にサウンディング型市場調査を実施し、具体的な事業手法や規模、詳細なスケジュール等を決定する予定。
- ・現在の指定管理者（ラ・フランス温泉株式会社）との契約期間は令和8年度で終了するため、令和9年度以降に向けた指定管理者の選定手続きを実施する必要がある。
- ・第1段階であるラ・フランス温泉館及び研修産業館のリニューアルオープンは令和11年度または令和12年度を目指す。
- ・第2～3段階の詳細なスケジュールについては、順次検討を進めていくこととする。